

とうきょう すくわくプロジェクト 活動報告書

園名	なごみ第二保育園
活動日時	2025年12月23日(火)
クラス名(年齢)	くじら組(5歳児)
年間テーマ	自然の探究活動

1. 活動テーマ

<テーマ>

風とあそぼう！

<テーマの設定理由>

自然の一部として触れている風であり、見えない事象に対して子どもたちがどのように興味を持つ、発見があるか。5歳児の年齢で自分の気づきや楽しみを友達と共有、友達に影響されながら探求が進んでいくのではないかと考えたからである。

2. 活動スケジュール

- ・人工的な風をつくり、身近なもの(制作素材や玩具)を用いて風を感じる。
- ・少人数のグループで活動を行うことで、一人ひとりが自分の思いや探求活動を行い気持ちや感覚を共有する。

3. 環境をデザインする(準備した素材や道具、環境設定)




- ・扇風機 3台
- ・ボール ・紙コップ ・紙テープ ・すずらんテープ ・画用紙 ・シフォン布
- ・廃材(卵パックやヨーグルト容器など)

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・風が何か子どもたちと話す。
- ・扇風機の前で風を浴びる。声を出したり、口に風を当てて楽しむ。
- ・子どもたちに身近な物を提示して自由に風を使って楽しむ。
- ・グループごとに発見・気づきを言葉にして共有する。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの言葉・姿	写真
<p>・風を自分の身体にあててみる。声を出すと羽根つきは声が変わるが、羽なしは声が変わらないことに気付く。口の中に風を当てると気持ちが良い、というところで「歯医者でやったことがある」と経験から似た例えを出す子もいた。</p>	
<p>・色々なものを風で飛ばしてみたところ、紙吹雪が軽いからか舞う光景を楽しむ。シフォン布に載せて一気に飛ばし、紙コップでキャッチしたらどうかということがグループ内で話し合われ実践する。後に紙は軽くて飛ぶ、重い(厚みのあるもの)ものは飛ばないこと。小さい紙も飛ぶけど大きいほう(風を受ける面が広い)が遠くまで飛んだと子どもたちは振り返っていた。</p>	
<p>・シフォン布が風であおられることからカーテンのような分厚い生地もなびくのではないかと友達と協力してやってみる。ゆれることはあっても重さと厚みで飛ばないことがわかった。</p>	

・別グループでも紙吹雪を飛ばして楽しんでいた。大量に紙を手から落とすとうまく飛ばないからかヨーグルト容器にくだものネットを入れた紙吹雪入れを自作して少しずつ紙が出るように工夫していた。風という事象だけでなくどうしたら上手く飛ばせるか、ということも考えていた。



・シフォン布が風の影響で身体に張り付くことを見つける。ここからどこまで下がったら身体につくか、という体験を通して風がどこまで吹いているか可視化できたようである。



5. 振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

・自然物・雨は目に見えているので触れやすいが”風”という目に見えないものに着目したことで子どもたちがどんな反応をするか不安であったが身体に触れるだけで5～10分楽しいと遊び続けていた。

・色々なものを風で飛ばすこと自体を楽しむことからシフォン布を体に張り付けて後退する、すずらんテープを手に持ちどこまで下がったら揺れるか子どもたちが物を使って風の距離を測ろうとしていた。ただ遊ぶだけでなく探求・分析しようという姿勢は5歳児だからこそ発展していったことではないか。

・シフォン布の揺れを「小さいパラバルーンみたい」、口に風を当てて「歯医者でやったことある」、割いたすずらんテープが揺れて「たこあげみたい」と経験に沿って例える、言語化することで友達・保育者と共有できていた。